

NEWS RELEASE

平成 28 年（2016 年）2 月 9 日

「金融スマートデータ研究センター」を設置 ～国立情報学研究所、三井住友アセットマネジメントが共同で～

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所（以下 NII、所長：喜連川 優、東京都千代田区）と三井住友アセットマネジメント株式会社（以下 SMAM、代表取締役社長兼 CEO：横山 邦男、東京都港区）は共同で、「金融スマートデータ研究センター」（センター長：喜連川 優 NII 所長）を NII の研究施設^(*1)として設置しました。NII と SMAM は平成 31 年（2019 年）3 月末までの期間、共同研究に取り組み、FinTech 分野で国内の金融市場の活性化や国民の安定的な資産形成といった社会的使命を果たし、日本経済の持続的な成長に寄与できる新たな技術構築を目指します。

金融スマートデータ研究センターは、公益性が高く研究上有意義で優れた成果が期待できる研究部門を民間機関などから受け入れる経費等を活用して設置・運用できるようにするために情報・システム研究機構が本年 2 月から導入した「共同研究部門制度」を利用し、SMAM が特任研究者の人件費などセンターの運営及び共同研究の実施に必要な研究経費を負担します。運営・研究経費を民間が負担して NII が研究施設を設置するのは、今回が初となります。本センターの設置は 2 月 1 日付です。

NII と SMAM が共同研究において主眼を置くのが「金融スマートデータ」です。これは、そのままでは巨大で複雑なデータの集積物に過ぎないビッグデータを処理、分析し、新たな価値の創出につながる有益な知識へと変えたものです。本研究センターでは、この「金融スマートデータ」を活用して複雑な経済・社会現象の背後にある法則の解明に挑み、長期的な視野の「未来予測」実現を目指します。

- NII と SMAM が共同で「金融スマートデータ研究センター」を設置
- 運営・研究経費は SMAM が負担／研究経費民間負担の研究施設設置は NII 初
- 新たな価値創出につながる有益な知識としての「金融スマートデータ」を活用

本件は NII と SMAM が共同で発表するものです。NII から文部科学記者会と科学記者クラブ、SMAM から兜倶楽部と日銀クラブを通じて各加盟メディアの皆様へ資料提供しているほか、NII、SMAM それぞれから関係各メディアの方々に個別に本リリースをお送りしています。重複して配信される場合がありますこと、ご了承ください。

NEWS RELEASE

【背景と共同研究の意義、研究内容、社会実装について】

昨年9月に金融庁が策定した「平成27年事務年度 金融行政方針」では、金融行政の重点施策4項目の一つとして「IT技術の進展による金融業・市場の変革への戦略的な対応」が挙げられています。FinTechへの対応の重要性は極めて高く、日本国内における本分野の研究開発も喫緊の課題で、証券会社による人工知能技術を利用した経済分析など様々な取り組みが始まっています。

こうした企業による取り組みに対し、今回設置された金融スマートデータ研究センターは資産運用会社と情報学分野で国内唯一の学術総合研究所による産学連携の共同研究です。この枠組みにより、研究成果は一企業の利益向上のみに使われるのではなく、将来的に広く日本社会全体にも還元され、国民の安定的な資産形成に役立てられることが期待されています。

さらに、大規模データ処理を専門とし、ビッグデータ活用分野で顕著な業績をのこしているNII所長の喜連川 優（きつれがわ・まさる）がセンター長を務め、企業単位の取り組みの限界を超える規模の巨大データを研究対象とすることで、より高いレベルでのデータの知識化、価値化、すなわち、「スマートデータ」化を実現します。

喜連川に加え、NIIからは物理学の手法を用いて経済や社会の動向分析や問題解決をする情報社会相関研究系准教授の水野 貴之（みずの・たかゆき）や、自然言語処理を専門とするコンテンツ科学研究系准教授の宮尾 祐介（みやお・ゆうすけ）らが参加。ビッグデータを「スマートデータ」化する処理技術を開発し、スマートデータを使ってより精度の高い未来予測を可能とする経済・社会現象の統計分析やモデル構築に取り組みます。また、自然言語処理や機械学習により、世の中を日々流通している膨大な金融関連情報を解析したり、価値のある知識を検出したりする技術を確立します。

これらの研究成果の社会実装として、資産運用会社における「未来予測に資する高精度な情報抽出と、そのリアルタイム集約」が考えられています。また、情報収集や情報分析の作業が効率化されることにより「経営リソースの高付加価値業務への重点配分」という成果も生まれます。こうした成果は資産運用のパフォーマンス向上につながり、ひいては国民の資産形成に貢献できると期待されています。

（図「金融スマートデータ研究センターの取り組み」参照）

NEWS RELEASE



NII は情報学分野で国内唯一の学術総合研究所として、情報学分野での未来価値創生を使命としています。その研究分野は幅広く、情報学における基礎論から、人工知能やビッグデータ、IoT (Internet of Things=モノのインターネット)、情報セキュリティなど多くの最先端のテーマにも取り組んでいます。NII は今後も産学連携を積極的に進めるとともに、研究成果の社会実装により学术界や産業界のみならず日本の社会全体に貢献できるよう、研究活動に取り組んでいきます。

SMAM は昨年 8 月 27 日、業界大手では初めて、「フィデューシャリー・デューティー宣言」^(*) を行い、その具体的な施策である「フィデューシャリー・アクションプラン」の 1 つとして、「産学連携によるビッグデータなど先端分野の研究」を掲げています。SMAM は金融スマートデータ研究センターの共同設置を通じて資産運用業の変革に挑戦し、国民の安定的な資産形成とリスクマネーの適切な供給による経済発展への貢献を目指しています。

以上

〈メディアの皆様からのお問い合わせ先〉

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立情報学研究所 広報チーム

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

美土路 TEL : 03-4212-2164

E-Mail : media@nii.ac.jp

三井住友アセットマネジメント株式会社

営業企画部

〒105-6228 東京都港区愛宕 2-5-1

愛宕グリーンヒルズ MORI タワー 28 階

前 橋 TEL : 03-5405-0212

木 村 TEL : 03-5405-3209

E-Mail : rei_kimura@smam-jp.com

(*)「研究施設」: 特定の専門分野についての研究に専念することを目的に設置される研究部門。金融スマートデータ研究センターは、昨年 4 月 1 日付で設置されたクラウド基盤研究開発センターとデータセット共同利用研究開発センターに続き、現在設置中の研究施設の中で 10 番目となる。

(*)「フィデューシャリー・デューティー宣言」: 新たに資産形成を検討中の顧客をはじめ、投資経験者、年金や機関投資家、事業会社など幅広い顧客に安心して資金運用を任せてもらえるよう、SMAM が顧客に対する同社の決意と姿勢を示したもの。宣言に基づく具体的な施策として、フィデューシャリー・アクションプランを同時公表した。金融庁は「平成 27 事務年度 金融行政方針」において、フィデューシャリー・デューティーを「他者の信認に応えるべく一定の任務を遂行する者が負うべき幅広い様々な役割・責任の総称」と定義し、金融機関への浸透と実践を促している。

NEWS RELEASE

〈図〉「金融スマートデータ研究センターの取り組み」

「金融スマートデータ研究センター」の取り組み

